

国史跡恵解山古墳基本計画の概要



平成21年3月

長岡京市教育委員会

恵解山古墳基本計画の概要

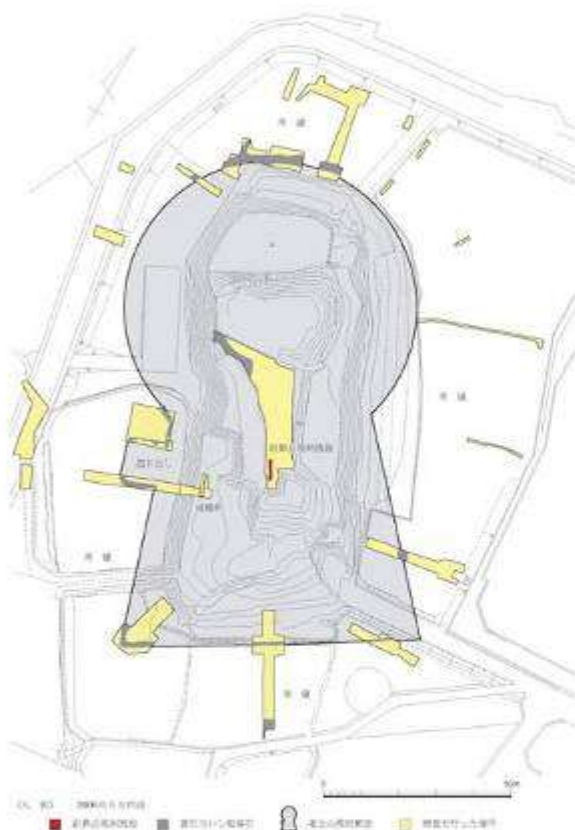
恵解山古墳とは

恵解山古墳は、古墳時代中期に築造された乙訓地域で最大の前方後円墳です。

桂川右岸の標高わずか19mの台地端につくられており、全長約130m、後円部の直径約80m、高さ約8m、前方部の幅約76m、高さ約6mと推定されています。周囲に幅約30mの周濠があり、周濠を含めた古墳の全長は180mに及びます。古墳の表面には砂岩やチャートなどの葺石がふかれ、埴輪が並べられていました。死者を埋葬した施設は古くから墓地があるため明らかになっていませんが、後円部に竪穴式石室があったとみられます。

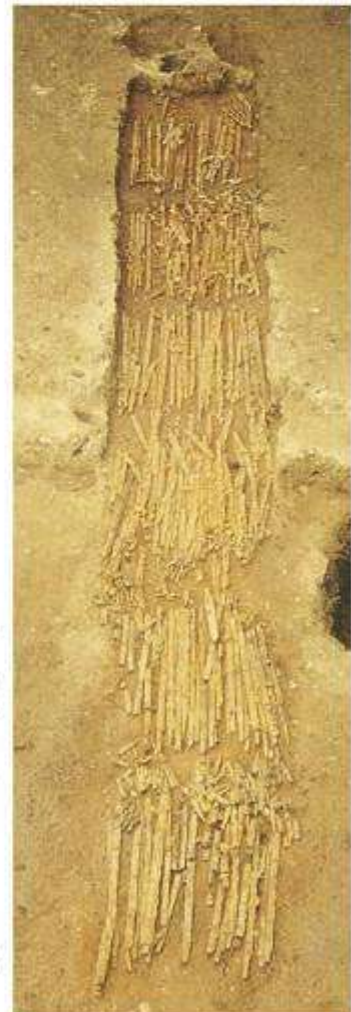
昭和55年(1980)の発掘調査で、約700点にもおよぶ鉄製武器(直刀146点、鉄剣11点、短剣52点、短刀1点、ヤス状鉄製品5点、藪手刀子10点、鉄鏃472点)を納めた副葬品埋納施設が見つかりました。このような多量の鉄製武器が出土した例は山城地方ではもちろんのこと全国的にも珍しいものです。こうしたことから、この古墳は5世紀前半頃に桂川以西の乙訓全域を支配した首長の墓と考えられます。

古墳は昭和56年(1981)に国指定史跡(指定面積19,496㎡)、鉄製武器などの出土品は平成11年(1999)に京都府指定有形文化財としてそれぞれ指定されました。



[恵解山古墳の想定復元規模]

[副葬品埋納施設の出土状況]



基本計画策定の経過

長岡京市では、国の史跡として指定されて以来、用地の買収を徐々に進めてきましたが、平成14年度(2002)によようやく史跡指定全域の公有化が完了するに至り、平成16年(2004)3月に恵解山古墳を市民の文化的な活動の場、憩いの場として活用するため、保存整備基本構想を策定しました。

本基本計画は、この構想を踏まえて、史跡指定区域とその周辺を一体的に保存・整備・活用するための方法などについてとりまとめたものです。

計画策定にあたっては、平成16~17年(2004~2005)年の2カ年の間、歴史・文化財の専門家や市民公募委員、地元自治会の代表者らによる基本計画策定委員会、近隣住民らによるワークショップ、長岡京市役所の関係各課による庁内検討委員会での検討をおこないました。

古墳時代の歴史文化に出合える場づくり
— 地域にある歴史文化の重視 —

- 古墳について学び、親しみ憩える場をつくれます
- 古墳時代の歴史文化を体験・学習できる場をつくれます
- 周辺の歴史・文化的資源と一体となった歴史文化に親しむ環境づくりの拠点とします
- 乙訓地域の古墳を結ぶネットワークづくりの拠点の一つとして整備します

歴史とみどり
人の集う 史跡公園

身近に自然とふれあえる場づくり
— 自然や景観との調和 —

- 史跡地にある緑地の保全を図り、史跡公園全体での植栽によって、地域の緑の拠点とします
- 身近な自然として、緑とふれあえる場とします
- 周辺の緑や水辺資源と結び、地域のうるおいとやすらぎの空間、みどりと歴史のネットワークづくりの拠点とします

人の集う、やすらぎの場づくり
— 人と生活への配慮 —

- 歴史、自然を通じて人が交流し、やすらぐ場とします
- 日常的な様々なレクリエーションが楽しめる場とします
- 高齢者や身障者などに優しい施設をつくれます



[ワークショップ、委員会の様子]

復元・整備計画

復元・整備計画の基本方針、考え方

- 市民の利用や緑の拠点としての存在価値にも配慮しながら、国史跡恵解山古墳の特徴をわかりやすく表現し、見学者に伝えることを目標とします。

[恵解山古墳の特徴]

- ① 乙訓地方最大の前方後円墳であること
 - ② 700点以上の鉄製副葬品が出土したこと
 - ③ 葺石・埴輪列、造出しをもつこと
- 緑の拠点としての価値や現在の利用にも配慮して、全面的な復元ではなく、古墳の特徴をよく現している部分、整備が可能な部分を、必要に応じて段階的・復元的に整備します。
 - 本計画では基本的な方針のみを定め、今後の調査成果を待って、より詳細な整備方法の検討を進めます。



[出土品（円筒埴輪）]



[埴輪列の検出状況]



[前方部南西コーナーの検出状況]



[西造出しの検出状況]

全体整備計画図

墳丘後円部：既存の樹木を残しながら、大きく削り取られている斜面部に盛土をして墳丘の形を整えます。またテラスの1段目を立体的に整備することで墳丘の大きさを表現します。

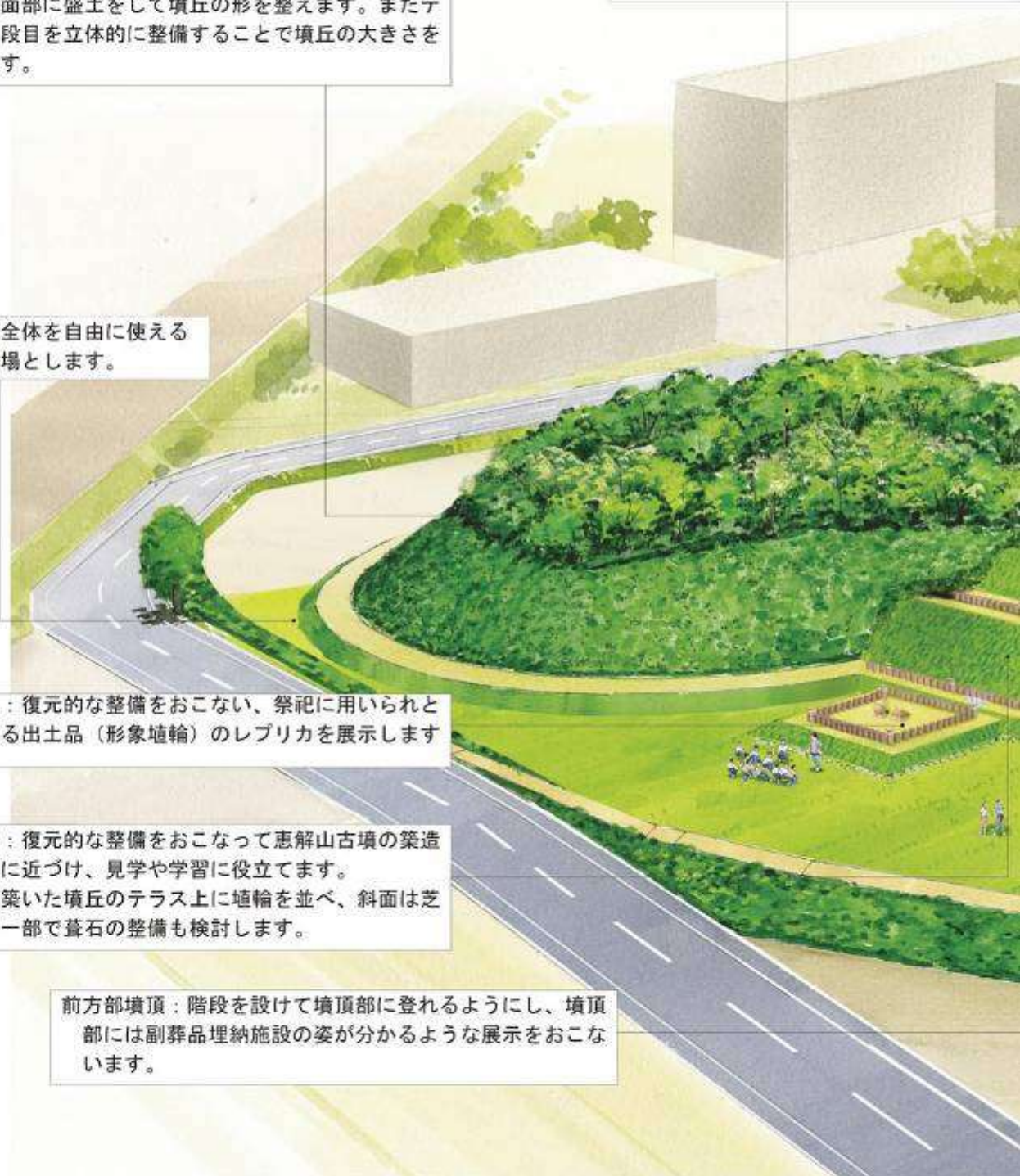
周濠：ほぼ全体を自由に使える芝生の広場とします。

西側造出し：復元的な整備をおこない、祭祀に用いられと考えられる出土品（形象埴輪）のレプリカを展示します

前方部西側：復元的な整備をおこなって恵解山古墳の築造当時の姿に近づけ、見学や学習に役立てます。
3段に築いた墳丘のテラス上に埴輪を並べ、斜面は芝で覆い、一部で葺石の整備も検討します。

前方部墳頂：階段を設けて墳頂部に登れるようにし、墳頂部には副葬品埋納施設の姿が分かるような展示をおこないます。

墓地：史跡区域内にある墓地は、基本的にとし、既存の車両進入路も残します。たしをよくするための枝打ちや伐採、整備界での植栽、簡易な整備などはおこない



は現状維持
だし、見通
区域との境
ます。

多目的広場：長岡第三中学校のテニスコートは、
当面は残しますが、より多くの市民が集える場
所として管理運営をおこないます。

東側造出しの表示

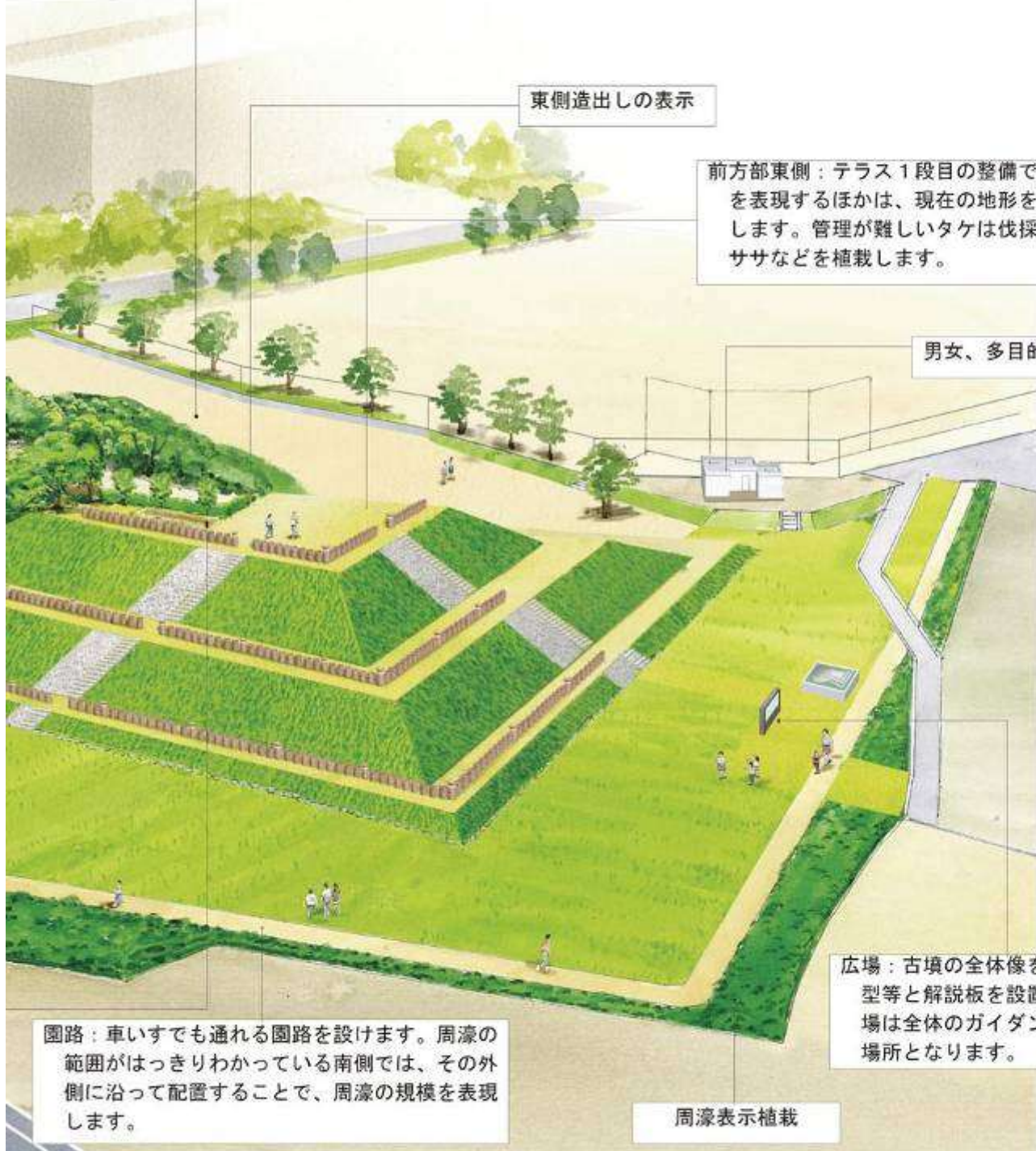
前方部東側：テラス1段目の整備で墳丘の大き
さを表現するほかは、現在の地形をできるだけ残
します。管理が難しいタケは伐採し、背の低い
ササなどを植栽します。

男女、多目的便所の設置

園路：車いすでも通れる園路を設けます。周濠の
範囲がはっきりわかっている南側では、その外
側に沿って配置することで、周濠の規模を表現
します。

広場：古墳の全体像を表現した模
型等と解説板を設置します。広
場は全体のガイダンスを受ける
場所となります。

周濠表示植栽



管理運営計画

管理運営の基本方針

- 恵解山古墳が、国史跡でありかつ地域の宝であることを認識し、史跡区域を適切に保全し管理します。
- 歴史文化に親しめる場、身近な自然と親しめる場、散策・休養などの場として、誰もが安全に気持ちよく利用できるようにします。
- 管理面・運営面とも、利用者のニーズに対応しながら、より多くの人に愛される史跡公園としていきます。

管理運営体制

- 整備後は、行政と市民がともに参加する協働の管理運営を目指します。
- 計画・整備の段階から、市民への情報提供や学習・参加の機会提供、ボランティア人材の育成などをおこない、近隣の住民に加えて、幅広い市民の誰もが参加できる仕組みづくりを進め、来訪者にとって魅力的で快適な管理運営をおこないます。

事業計画(予定)

平成15年度 (2003)	基本構想の策定
平成16年度 ～17年度 (2004～2005)	基本計画の策定 「恵解山古墳を愛する人」登録開始
平成18年度 ～21年度 (2006～2009)	整備に伴う発掘調査の実施 恵解山古墳を愛する会(仮称)設立に向けたワークショップなどの ソフト事業の実施
平成22年度 ～25年度 (2010～2013)	基本設計、実施設計、工事実施 恵解山古墳を愛する会(仮称)設立
平成26年度 (2014)	史跡公園の開設

恵解山古墳案内図

[長岡京市の位置]

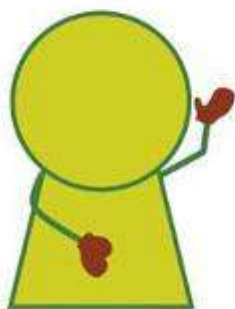


[恵解山古墳の位置]



- ◆ JR長岡京駅から 南へ徒歩約10分
- ◆ 阪急バス久貝停留所から 北へ徒歩約3分

「恵解山古墳を愛する人」のお知らせ



長岡京市では、将来的な市民との協働による管理運営組織の設立を目指すには、まず市民の皆様には恵解山古墳のことを知っていただくことが大切だと考え、「恵解山古墳を愛する人」の登録を受け付けています。

「恵解山古墳を愛する人」の登録をされた方には、恵解山古墳の発掘・整備に関わる情報や、イベントのお知らせなどをお送りさせていただきます。興味のある方は、ぜひ下記の問い合わせ先までご連絡ください。

国史跡恵解山古墳基本計画の概要

編集・発行・お問い合わせ

長岡京市教育委員会 生涯学習課 文化財係
〒617-8501 長岡京市天神4丁目1番1号
電話：075-954-3557
ファックス：075-954-8550
E-mail: syougaiakusyu@city.nagaokakyo.kyoto.jp

平成21年(2009)3月改訂